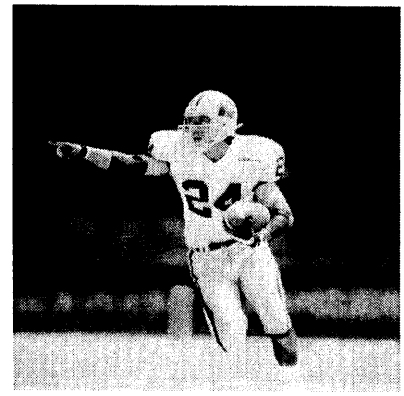
このほどドイツで開催された第2回アメリカンフットボール・ワールドカップで日本は2大会連続の優勝を成し遂げた。代表チームの守りの要であるDB（ディフェンスバック）として活躍したのが鹿島建設の「鹿島ディアーズ」副将の佐野忠也さん（26）。個人的にも世界の舞台で活躍をしており、今、日本で最も注目される選手のひとりだ。（聞き手＝柄澤　邦光）

頭と体をフルに駆使

日本人のNFL入り期待

アメフトW杯独大会で優勝



▼日本代表でも活躍する鹿島ディアーズの佐野さん

HOT TIME　インタビュー　この人と1時間

鹿島建設
鹿島ディアーズ副将
佐野　忠也さん

――優勝おめでとうございます。

「ありがとうございます。素直にうれしいですね。私はもともと高校まで野球に熱中し、是が非でも甲子園に行きたかったんです。それがかなわなかったので、大学ではアメフトを。実は、大学の日本一を決める試合は甲子園でやるんです。アメフトを始めた理由も甲子園なんですよ（笑）。でもその夢もかないませんでしたが（笑）――。こんな『経歴』ですから今回、ようやく、大舞台で大きな成果を上げられた、という感じです」

――日常の1日のスケジュールは。

「火曜の午後7時から、土、日曜に練習し、それ以外は他の社員とまったく同じ勤務をしています。社会人スポーツというと、よく午前中だけ働いて午後はすべて練習に回せると、考えられがちですが、鹿島の場合は、勤務時間を減らして練習するということはしません。私が鹿島に入社したのも、仕事とスポーツの区切りをしっかり付けているからでした。とはいっても、会社の協力なしではできませんので、その点に関してはとても感謝しています」

――プライベートの時間がありませんね。

「そうですね。火曜日は午後9時くらいまでフィールドで練習、その後ミーティングをし、さらに自主的に筋力トレーニングをします。寝ることも大切な健康管理ですのでなるべく早めに寝るようにしていますが、それでも就寝は午前1時を過ぎます。土、日の練習は午前10時から午後4時か5時ごろまで。年間でみても休日は夏のオフシーズン一カ月間の土、日だけです。でも、今年はこの期間、ワールドカップに出場しましたので、お休みはなしでした」

――ハードスケジュールでアメフトを辞めたいと思ったことは。

「ありませんね。ストレス解消もアメフトです。アメフトは格闘技です。筋肉の『鎧』で身を固め、相手に真っ向からぶつかるのですが、一方で、完璧なチームプレーが要求されるスポーツでもある。フォーメーションだけでも1000通り以上あり、ゲームでは100通りくらい準備して使います。ディフェンスもそれに合わせて変えていくわけです。つまり、非常に頭を使う。頭と体、人間の持つあらゆる能力を究極まで使うゲームがアメフトなのです。これほど醍醐味のあるゲームは他にありません」

――それでも、つらいことはあるでしょう。

「仕事のうえで、同期に差を付けられているのではないか、と常に不安に感じてはいます。私がアメフトをしている間、同期は少なくとも仕事のことを考えることができるわけですから…。そんな時に頼りになるのは、チームの仲間です。皆、同じ悩みを持っていますから、素直に打ち明けて話し合うんです」

――これからの夢は。

「後輩の育成とアメフトの日本での普及です。NFLの下部組織のNFLヨーロッパのプロテストに合格でき、今年2月にキャンプに参加して、本場のすごさを体験してきました。今は、あらゆる面で日本選手は米国人選手にかないませんが、それでも、追い付き、追い越せるという確かな感触を得ることもできました。日本人のNFLプレーヤーが生まれる日も近いかも、と思います」

メモ　ワールドカップはIFAF（アメリカンフットボール国際連盟）が主催。第1回大会は99年にイタリアで開催され、日本が優勝。7月開催の第2回ドイツ大会では日本がメキシコを破り、2大会連続で優勝した。